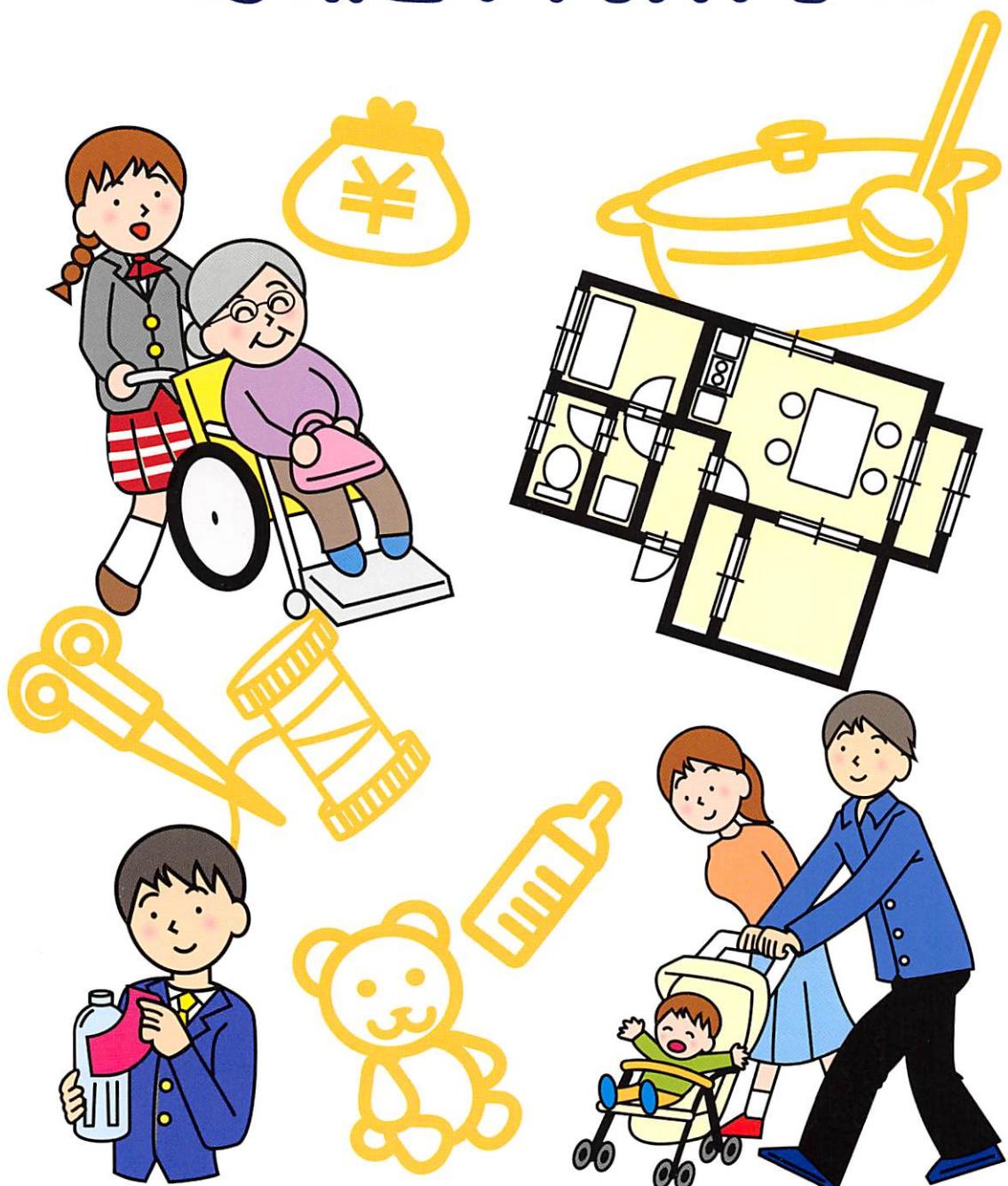




高等学校

# 家庭科教育は



全国高等学校長協会家庭部会

公益  
財団法人

全国高等学校家庭科教育振興会

# ともに生きる・とも

## 高校家庭科の学習とは

### ●家庭科は、必履修科目として、すべての高校生が学びます。

家庭科は平成6年度から、家庭の教育力の回復、親となるための力の育成、男女共同参画社会の実現を目指し、男女必履修、すなわちすべての高校生が学ぶようになりました。

### ●「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」の中から学びます。

家庭科は、「家庭基礎（2単位）」「家庭総合（4単位）」「生活デザイン（4単位）」から、学校の実態・生徒の興味関心等により1科目を選択して学習します。

### ●体験的な学習や課題解決型学習を重視し実践力を育てます。

家庭科では、調理実習や保育体験など実験・実習を重視するとともに、「ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動」という自ら生活課題を見つけ、解決に向けて研究・実践する学習が、大きな特色です。



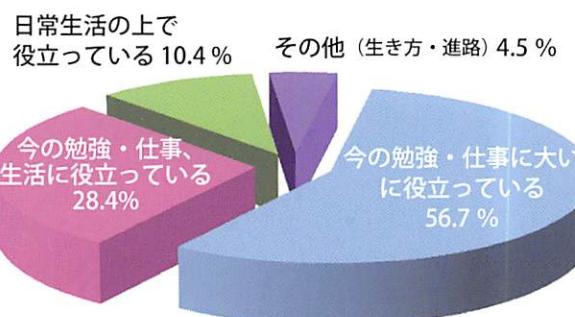
家庭や社会と向き合い、生涯を見通して目標をもつとともに、生活課題の改善や解決に向けて意思決定し、問題解決する力や生活をよりよくするために主体的に実践できる能力と態度を育てます。

## 家庭科で培う力とは

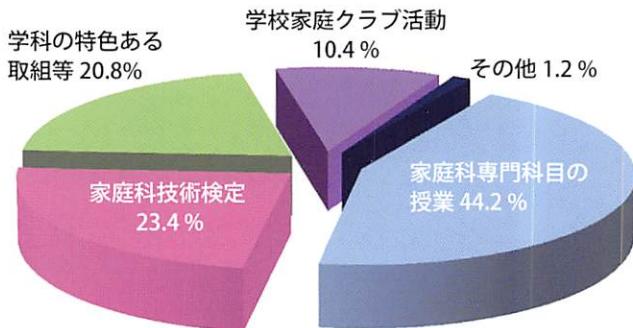
生活を科学的に考える力  
生活課題を解決する力  
人とかかわる力  
感謝する心・感動する心

## 家庭科を学習した後の生徒の感想

### ■学科の学びの有用性■



### ■今の仕事や勉強に役立っている学科の学び■



## ケーススタディ調査研究のまとめ (一部抜粋)

- ①技術検定や学校家庭クラブ活動に熱心に取り組んだ生徒は、学科と関連した進路を選択している生徒が多い。
- ②高校生活を振り返る中で3年間の学びが自分を成長させたと実感し、学科での様々な体験的な学習が自信へと繋がっていた。
- ③高校の学科の学びは、現在の仕事や勉強、日常生活に大いに役立っている。特に、就職者は学科での学びが社会人の基礎力となり、仕事をする上で大きな自信となっていた。
- ④後輩へのアドバイスでは、就職者、進学者ともにチャレンジ精神をもち懸命に高校生活に取り組んでほしいと願い、就職者の多くが、友人や教師との繋がりの大切さを示唆していた。

(「平成23年度 高等学校家庭科におけるキャリア教育・職業教育の在り方に関する調査研究」全国高等学校長協会家庭部会家庭科調査研究委員会より)

# 暮らしを創る家庭科

## 主な学習活動



## 家庭科の学習内容と社会の変化への対応

家庭科では、基礎・基本を重視しながら、これからの社会の変化に対応できるよう、学習内容が構成されています。

学習内容の構成	主な学習事例	社会の課題
ともに生きる 人の一生と家族 子どもとともに 高齢者とともに 人のつながりと福祉	◇高校生の発達課題と生涯生活設計実習 ◇いろいろな職業とキャリアプランニング実習 ◇健康な食習慣の形成と調理実習  ◇親になる学習と子どもとの触れ合い体験 ◇バリアフリーとユニバーサルデザイン	仕事と生活のバランスの確保  高齢化社会への対応
ともに暮らしを創る 暮らしの中の食 暮らしの中の衣 暮らしの中の住 暮らしの中の消費 快適な生活と環境	◇世界の生活文化 ◇衣食住の科学  ◇食育・調理実習・実験 ◇衣食住の伝統文化（行事食実習・和装体験等） ◇支え合う家族・支え合う社会の仕組み  ◇地球温暖化と暮らしの工夫 ◇健康で安全な衣食住の環境 ◇暮らしの3R（リデュース・リユース・リサイクル）	グローバル化の進展  家庭の教育力の充実と生活文化の伝承  持続可能な社会の構築
ホームプロジェクトと 学校家庭クラブの活動	◇地域コミュニティの一員としての交流活動 ◇保育所・幼稚園の訪問実習 ◇高齢者・障がい者福祉施設の訪問	新たな社会参画の進展

## 専門教育家庭科が重視する4つの視点

**視点1 確かな知識と技術をもち、人間性豊かな人材の育成**

基礎的な知識と確かな技術、企画力やマネジメント能力を身につけた人材を育て、職業人としてのホスピタリティマインド（もてなしや心配りなど）を重視します。

**視点2 生活文化を伝承し創造する人の育成**

有形・無形の伝統文化に現代の知識や技術を取り入れながら、新しい知恵や技術を磨き、よりよい生活を創造します。

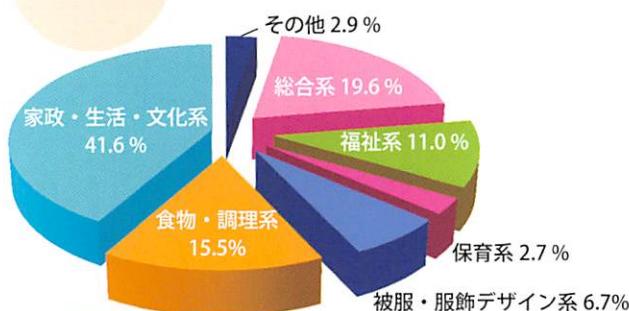
**視点3 起業家マインドをもった人材の育成**

衣食住については、ものづくりの視点を明確にして起業的な視点を重視します。

**視点4 将来のスペシャリストの育成**

少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化に対応し、衣食住、ヒューマンサービスなどにかかわる生活産業を担う人材を育てるこことを重視します。

## 家庭に関する学科



## 家庭に関する学科の卒業生の進路は



(平成24年度 全国高等学校長協会家庭部会 進路調査研究委員会報告より)

## 新しい教育活動の取組み

地域に育てられ地域に貢献する  
スペシャリストの育成

## 学習する科目

- 1学年「生活産業基礎」2単位
- 2学年「起業家入門Ⅰ」1単位
- 3学年「起業家入門Ⅱ」1単位

※2学年から学校独自の特色ある科目を学んでいます。

## 育つ力

アイディア創出力・ものづくりに対する意欲  
チームワーク力とチャレンジ精神の向上  
専門科目への学習意欲と就業意欲の向上  
人の意見を聞く力・思いやりの醸成  
地域への理解の深まり



## 卒業生の活躍—高校時代を振り返って—



三重県立相可高等学校

平成10年度卒業

**村林 昌弥**



茨城県立水戸第三高等学校

平成19年度卒業

**猪本 舞**

高校時代は、とにかく料理が大好きで一生懸命でした。その気持ちは今も変わっていません。一生懸命な気持ち、姿勢、行動は人に絶対伝わります。そして、必ず、自分に戻ってきます。そのためには、尊敬できる人を見つけ、憧れをもつことが大事です。いつか自分が尊敬され、憧れられるように、日々精進！です。

平成10年第14回調理師養成施設調理技術コンクール「日本調理師会会長賞」  
平成11年1月15日NHK「青春メッセージ」出場  
平成18年3月31日「日本料理専門調理師」「調理技能士」取得  
平成23年9月17日「第3回日本料理コンペティション」東海北陸地区大会出場  
伊勢市「礎石 かみむら」(現在)

素直で真っすぐな友人に囲まれ、いつも全力で情熱的な3年間でした。高校卒業後、文化服装学院に進学し2年間を修了。現在は当時あこがれていたパリコレブランドに入社し、パタンナーとして、服と向き合っています。辛い事があるたび、それぞれの道で頑張っている友人を思い出してはカツを入れています。

こんな素敵な出逢いを与えてくれた水戸三高に、いつかにかお返しできる様、まずは毎日を一生懸命に頑張ろうと思います。

文化服装学院 服装科卒業  
パターンメーキング技術検定3級  
株式会社 ヨウジヤマモト入社(現在)

# における家庭科

## ファッション系学科

コンテストやコンクール・検定等への積極的なチャレンジ、作品発表への取組みなど、体験的学習を重視し、衣分野に関する専門性豊かな人づくりをめざす。



## フード系学科

資格取得に挑戦し、高度な知識・技術を身につける。

例：調理師・製菓衛生師等

調理師実習施設の経営などを通して、地域の食のリーダーとしての資質を磨く。



## 家庭に関する学科の 学習活動紹介

### 家政・生活系学科

豊かな家庭生活を創造するための知識や技術を身につけ、社会の変化に対応できる能力と態度を育む。  
専門科目の学習により、衣食住・保育・情報・福祉等のスペシャリストをめざす。



### 保育系学科

体験的な学習などを通して、幼児・児童教育を担う、人間性豊かな保育士や幼稚園教諭をめざす。



確かな技術を身につける

# 家庭科

## 技術検定の特色

### ■技術検定は、54年の長い歴史を刻んでいます。

家庭科技術検定（被服製作・食物調理）は54年、保育技術検定は20年の歴史があり、家庭科教育の充実に向けて取り組んでいます。

### ■技術検定には、これまで2,003万人の全国の高校生が受験しています。

家庭科技術検定（被服製作・食物調理）と保育技術検定を合わせると、年27万人、これまで2,003万人の生徒が取り組みました。

### ■技術検定では、毎年約1,000人の「3冠王」が誕生しています。

「3冠王」とは、家庭科技術検定の和服1級・洋服1級・食物調理1級の3種目すべて1級を取得した者をいい、毎年およそ1,000人、これまで38,800人の高校生が表彰されています。

## 家庭科技術検定 基礎から応用力までを育てる

### ●被服製作（和服・洋服）●

	〈和服〉	〈具体例〉	〈洋服〉
1級	ひとえ長着の製作		外出着の製作 総裏ジャケットの制作
2級	簡単な和服の製作 大人用甚平の製作		日常着の製作 シャツブラウスの製作
3級		簡単な衣服の製作 アウターパンツの製作	
4級		基礎縫い ボタン付け・ミシン縫い・まつり縫い・並み縫い・半返し縫い・三つ折り縫いを実施	



ひとえ長着（和服）



総裏ジャケット（洋服）

1級作品

### ●食物調理●

	〈具体例〉	筆記試験有
1級	供應食・行事食等の献立と調理 45歳母の誕生日祝い献立作成・指定調理	有
2級	日常の調理と献立 高校生通学用弁当、家族の夕食献立・献立作成・調理	有
3級	調理手法の基礎 涼伴糸、ハンバーグステーキつけ合わせパセリ、かき玉汁、調理・目測	有
4級	調理の基礎 包丁の持ち方、切り方・計量・基礎知識	有



1級作品

### 〈4冠王取得者の声〉



長崎県立川棚高等学校  
3年 中村 早希

生活総合科に入学し、4冠王を取得できとてもうれしく思います。検定本番に向けて、何度も練習を重ね、大変なことも多かったです。が、クラスの友人との励まし合いや、先生からのアドバイスで合格することができました。

検定では、これまで取り組んだことがないような貴重な体験ができる、忍耐力や集中力を身につけることができました。更に自分自身の自信にもつながりました。高校で身につけたことをこれから将来に生かしていきたいです。

### 〈3冠王取得者の声〉



秋田県立大館高等学校  
3年 石田 龍

私は生活に生かせる技術を身につけたいと思い、生活科学科の被服分野を選択しました。そこで3冠王を取得できることを知り、是非取得したいと思いチャレンジしました。一つの技術検定に合格する度に自信がつき、その自信を次の検定の合格のための糧にしてきました。長い道のりでしたが、3冠王に辿り着くことができました。先生方や友達と支え合って取得できたものもあるので感謝しておりますし、とても嬉しく思っています。

この3冠王で得た知識と技術、集中力や忍耐力を社会人になっても活かしていくこうと思います。

# 技術検定

4級からスタート、1級に挑戦

技術検定を通して培われる力

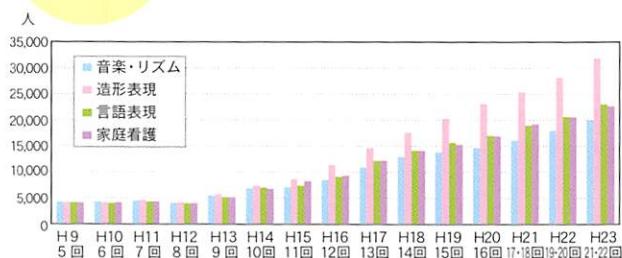
技術力 創造力  
段取力 忍耐力  
チャレンジ力

## 技術検定の歩み

昭和 32 年ころ 三重県等東海地区において技術検定の研究が始まる。  
昭和 34 年 校長協会家庭部会総会で被服製作技術検定実施を決定する。  
昭和 35 年 食物調理・被服製作の 4・3 級を開始する。24 万人受験。  
昭和 36 年 食物調理・被服製作の 2・1 級も実施する。28 万人受験。  
全国高校技術検定委員会を組織し、評価・作問・研究委員会・全国専門委員会を設置する。  
昭和 38 年 文部省後援となる。  
昭和 43 年 事業拡大に伴い、財団法人を設立し文部省より認可される。  
昭和 5 年 保育技術検定（3～1 級）が開始される。

平成 7 年 家庭科技術検定の文部省認定が許可される。  
平成 9 年 保育技術検定に 4 級を新設する。  
平成 16 年 家庭科技術検定（被服製作・食物調理）のガイドラインを策定する。  
平成 18 年 家庭科技術検定・保育技術検定は、文部科学省後援に改まる。  
平成 21 年 家庭科技術検定が創立 50 年を迎える。  
平成 23 年 8 月に公益財団法人として発足。

## のびる保育技術検定 これまで 73 万人の高校生が受験しています。



## 保育技術検定の内容

級	種目	音楽・リズム表現技術	造形表現技術	言語表現技術	家庭看護技術	筆記試験の有無
1級	ピアノ演奏と童謡弾き歌い	壁面構成	素話の創作と実演	乳幼児の生活の世話(けがの手当)	有	
2級	ピアノ演奏と童謡歌唱	貼り絵(ちぎり絵・切り絵)	絵本の読みきかせ	乳幼児の生活の世話(清拭・おむつの交換)	有	
3級	ピアノ演奏と歌唱	折り紙と描画	紙芝居の実演	乳幼児の生活の世話(衣類の着脱)	無	
4級	歌唱	折り紙	童話など短かい文章の読みきかせ	乳幼児の世話(だっこ・授乳・検温など)	無	



言語表現技術



音楽・リズム表現技術



造形表現技術

## ■技術検定理解のための Q&A ■

Q 1 家庭科技術検定や保育技術検定は、どのような組織で運営するのですか？

A 設立当初から家庭科技術検定は、検定代表理事校・全国専門委員会等全国組織を作り、評価研究や運営等を組織的に行ってています。保育技術検定は、実施校と本部事務局が直結し、年1回の全国専門委員会や隔年開催の保育教育研究大会等で評価・運営等を協議します。

Q 2 技術検定の評価は、誰が行うのですか？

A 家庭科技術検定では、3・4級は自校の家庭科の先生が評価し、1・2級の場合には専門委員という他校の先生も加わるなどして評価基準に基づいて評価しています。

Q 3 男子生徒はどのくらい受験していますか？

A 食物調理・被服製作の受験総数に占める割合は約 34%です。保育技術検定も受験しています。

Q 4 4冠王の生徒がいると伺いましたが、どんな内容ですか？

A 4冠王は和服1級・洋服1級・食物調理1級・保育1級合格した者をいい、平成18年度から誕生し18年度7人、24年度100人と大幅に伸びています。なお、3冠王も4冠王も公益財団法人家庭科教育振興会が表彰し、「家庭部会報」に名前を掲載しています。

# 全国高等学校長協会家庭部会

## ◆沿革

昭和 26 年 5 月	家庭部会（職業課程）誕生 23 校でスタート 東京都立上野忍岡高校に事務局設置
昭和 27 年 11 月	全国校長協会の家庭科部会として承認 第 1 回総会 東京都立上野忍岡高校で開催
昭和 30 年 9 月	家庭部会と名称変更 部会報第 1 号の発行
昭和 32 年 7 月	第 1 回家庭科講習会 都立上野忍岡高校で開催
昭和 38 年 5 月	事務局を千代田区富士見の現地に移転
昭和 45 年 11 月	創立 20 周年記念式典
昭和 48 年	第 1 回家庭科教員海外派遣
昭和 57 年	新事務局落成披露式・創立 30 周年記念式典
平成 4 年	創立 40 周年記念式典
平成 13 年	創立 50 周年記念式典
平成 23 年	創立 60 周年記念 記念誌発行

## ◆組織

### 全国高等学校長協会家庭部会



## ◆主な事業

### ○総会・研究協議会等の開催

- 春季総会・研究協議会
- 秋季研究協議会

### ○名簿の発行

### ○家庭部会報の発行

### ○調査研究委員会の活動

### ○小学校校長会・学科主任研究協議会の開催

- 被服・服飾デザイン系研究大会
- 食物科・調理科研究大会
- 保育系教育研究大会

### ○現職研修への支援

- 全国高等学校家庭科実践研究会の開催
- 独立行政法人教員研修センター委託事業  
(産業・情報技術等指導者養成研修)

### ○全国産業教育フェアへの支援

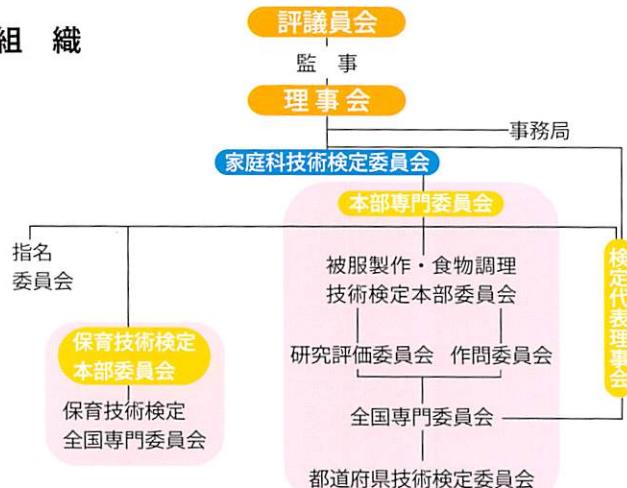
### ○家庭科教材の編集

# 公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会

## ◆沿革

昭和 35 年から実施していた「高等学校家庭科技術検定」は、年々受験者の拡大がみられ、円滑で充実した推進を目指し、財団法人の設立が検討された。昭和 43 年 7 月には、高等学校家庭科の教育調査研究や研修、技術検定の実施などを通じて、家庭科教育の振興に寄与することを目標に、財団法人全国高等学校家庭科教育振興会が設立された。平成 23 年 7 月には、内閣府より、公益財団法人として認定された。8 月 1 日に公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会として新たなスタートをきった。

## ◆組織



## ◆主な事業

### ○家庭科・保育技術検定の実施

- 全国専門委員会の開催
- 本部委員会の開催
- 全国技術検定研究大会の開催
- 保育技術検定講師派遣

### ○家庭科教材に関する出版

- 学習ノート（ライフプランノート）
- 私たちのエチケット

### ○家庭科技術検定等に関する教材発行・販売

- 家庭科問題集（基礎編・被服編・食物編）
- 保育技術検定過去問題集
- 検定ビデオ
- 保育技術検定 DVD
- 型紙

### ○顕彰事業

- 3・4 冠王取得生徒の表彰
- 教員表彰

# 全国高等学校長協会家庭部会 公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会

〒 102-0071 東京都千代田区富士見一丁目 5-6 TEL : 03-3261-0617 FAX : 03-3288-1670

<http://www.katei-ed.or.jp> E-mail : all-kocho@katei-ed.or.jp / katei-ed@katei-ed.or.jp